

編集後記

2013年も残りわずかとなりました。皆様にお変わりはありませんか。今年も多くの事件や災害が世界のあちこちで発生しました。特に、日本では、関東大震災の影響をいまだに脱し切れていませんが、フィリピンでも大きな災害が発生しました。

わがアジア近代化研究所の機関紙である *e-Magazine* も *Newsletter* から名称変更して以来、早くも7号目を数えます。毎回、多くの会員や研究者のご協力を得て、質の高い論考を皆様にお届けしてきました。皆様のご協力を得て、今回も貴重な4本の論文と「ニュースの裏を読む」を掲載することができました。いずれも最終的な評価は読者の皆さんにお任せしますが、読みごたえのある素晴らしいものと確信します。

まず、1本目の「中国シャドウバンキングに思うこと」は金融の専門家である岸真清先生が、いま話題になってる中国のシャドウバンキングについて、鋭い考察を加えておられます。シャドウバンキングが、不動産バブルを引き起こした元凶のように扱われているが、不動産バブルは、シャドウバンキングを必要とした中国の金融システムが抱える根深い問題であるとの認識に立ち、問題を様々な角度から考察した後、中国政府も改革に着手しているが、最近の日本の経験（間接金融型金融システムの本来の利点を生かした改革など）も、参考になるのではないかと示唆しておられます。特にシャドウバンキングや中国の金融問題ならびに今後の経済発展に関心を持つ皆さま

んには、ぜひとも、一読をお願いする次第であります。

2本目は「タックス・ヘイブン対策税制をとりまく環境と今後の課題」について、タックスヘイブンを含む国際租税法研究で知られる明星大学の濱田明子教授にご執筆頂きました。濱田先生は、本論考で、特に所得に対する税率の各国の違いを利用したタックスプランニングに対処するタックス・ヘイブン対策税制をめぐる国際的な動向と日本のタックス・ヘイブン対策税制の仕組みを概観した上、今後の課題についても鋭い考察を加えておられます。最近ではタックスヘイブンの是非などが話題になるだけに、その本格的な考察が望まれています。濱田教授の論考はまさにそうした期待に十分応えられる、またとない論考と言えるでしょう。

3番目の論考は国土舘大学客員教授のトー・ホアン博士による「ベトナムにおける経済成長の現状と経済対策」についての論考です。氏はまず市場経済メカニズムの導入後のベトナムにおける経済成長の実績を考察し、経済成長を維持するための産業構造の変化や、貿易の拡大、投資環境の改善等の主要対策について考察を加えたものです。世界から注目されるベトナムですが、まだまだ政府の改革や国民の努力が必要のようです。アジア生産ネットワークに参加し、工業化を実現し、付加価値の高い産業構造を構築するにはもう少し時間がかかると思われませんが、9000万人の人口と、

勤勉さ、生真面目さ、高い潜在能力を持つベトナムがアジアで中心的役割を果たす日は確実に近づいているように思われます。

5 番目は前号に続いて、「インドネシア経済の持続的発展の可能性と課題(2)」をわが研究所代表が執筆したものです。今回で完結しています。インドネシアは戦後ずっとそれが持つ資源の豊かさに魅せられて、多くの国が直接投資や援助を行ってきました。それにもかかわらず、東南アジアの中で、決して豊かではありません。現在もまた多くの国がインドネシアに引き寄せられています。果たして、インドネシアはこのまま離陸できるでしょうか。こうした疑問を持ちつつインド

ネシアの現状と問題点を浮き彫りにしようという野心的な論考です。

今回の「ニュースの裏を読む」は最近話題となっている、不動産バブルの問題に注目しています。

今号も多くの素晴らしい論考をお届けすることができ、編集者として大きな満足感を覚えております。これからも可能な限り、優れた論考をお届けできるよう努力して参りたいと考えております。2013年も終わりに近づきました。この1年、ご支援・ご協力ありがとうございました。今後とも、よろしく願いいたします。今年の冬は厳冬とか。皆さんも体調管理に万全を期していただきたいと思っております。(NK)